

## 2012年 日本建築学会北海道支部 技術賞

・道内歴史的建造物の保存・修復技術に係る建築技能の継承

亀田 宏 君（亀田工業株式会社）

若浜 宗 君（同上）

氷川 貢司 君（同上）

村上 淳二 君（同上）

杉目 千秋 君（同上）

### 審査経緯

本賞は、北海道における創造性豊かな建築・都市に関する技術の開発者、継承者等を表彰することにより、北海道の建築界の技術の向上に資するために設けられた賞である。2012年11月15日～2013年1月15日の応募期間に3件の応募があった。北海道の建築界の技術の向上に資するものであることを、地域性、独自性、有効性、新規性に加えて継承性、継続性の6つの観点から評価する評価基準に従って、第6回北海道支部技術賞選考委員会を計2回に加えて、専門選考部会1回を開催して審査した結果、1件の表彰対象者を決定した。当該技術の特徴として以下の点が挙げられる。

受賞の亀田工業株式会社は、江差町を拠点において、地域柄主に日本海側に点在する漁家建築の保存修復を通じて歴史的建造物の保存改修技術の習得を積み、国指定重要文化財旧中村家住宅保存修理工事（江差町、1982年3月竣工）を始め、近年では国指定重要文化財旧笹浪家住宅保存修理工事（上ノ国町、2008年8月竣工）、国指定重要文化財「八窓庵」等復旧工事（札幌市、2008年8月竣工）を行い、30年以上の永きにわたり国や北海道、市町村の指定有形文化財の保存修理工事を担ってきた。これら北海道における歴史的建造物の保存・修復工事の多くは、特に積雪寒冷地の特性から生じる課題を科学的かつ経験に基づいた技術、技能によって遂行し、北海道の文化財の維持に貢献してきた。

地域特性に配慮した技術の一つには、凍害に弱い軟石材を基礎に用いる場合の保存・修復技術がある。上ノ国勝山跡(たて)内米・文庫蔵組立復元工事では、基礎上部の笏谷石(しゃくだにいし)を凍害に強い札幌軟石に置き換え、地面下の貴重な基礎材料であるバン層(硬質粘土材)の劣化部分補強と凍結深度を考えた保存・修復技術である。また北海道指定有形文化財旧檜山爾志(にし)郡役所庁舎保存修理工事では、笏谷石基礎を凍害からまもるために暗渠排水を施すことにより、積雪寒冷地に建つ歴史的建造物の現状の構造等を損なう要因を最小限に抑えた。

外壁漆喰壁の凍害対策としては、国指定重要文化財旧中村家住宅保存修理工事では石灰と貝灰の比率を変えて撥水効果と耐久性を向上させた。あるいは五稜郭跡箱館奉行所庁舎復元工事では、漆喰の稲藁にクローバーを混入させて微生物の発酵分解の効果による工期短縮を図るなど寒

冷地での課題を解決してきた。

受賞者は、これら北海道の固有の伝統的建築技術・技能の多くを保有しており、道内の歴史的建造物の保存のために、積雪寒冷地での伝統的建築技能の継承と後継者の育成に取り組んでいる。選考基準にある地域性、継承性に相当し、北海道の建築界の技術の向上に寄与している。よってここに日本建築学会北海道支部技術賞を贈るものである。

(文責：佐藤 孝)